



つなぐ、むすぶ、ささえあう。

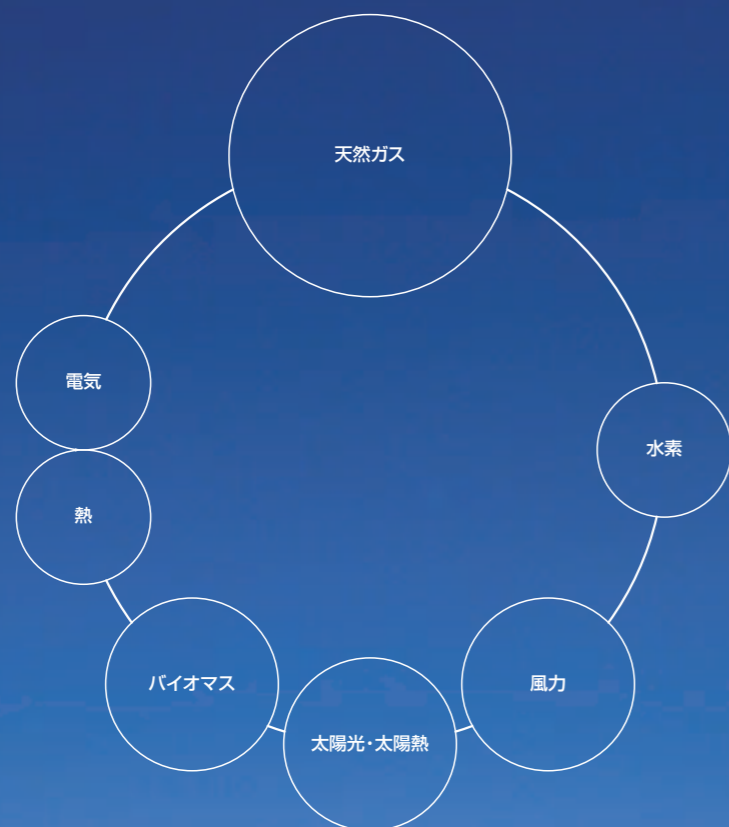


東京ガスグループの
CSR 2009

2008.4~2009.3

2030年 エネルギーの未来予想図。

エネルギーのベストミックスで低炭素社会を実現します。



いつも、いつまでも、安心して使えるエネルギーをお届けすること。
私たちは、その公益的使命と社会的責任のもとに、
環境性に優れた天然ガスを中心に、お客さまへより良い生活を提案し続けます。

社会の持続可能な発展を考えたとき、
20年、30年先のエネルギー供給や利用はどうあるべきか？
その一つの答えとして、私たちはいま「スマートエネルギーネットワーク」という
次世代のエネルギーシステムの研究と実証を進めています。
例えば、バイオマスや太陽光・太陽熱、風力などの再生可能エネルギーと
天然ガスを組み合わせて、環境性能に優れたエネルギーを安定供給すること。
あるいは、天然ガスを使ったコージェネレーションシステムを活用し、
地域の中や建物と建物の間で、熱と電気を融通し合うこと。
このように、いろいろな方法を組み合わせ、エネルギーを賢く利用することで、
CO₂削減も社会の発展も同時にかなえていこうという構想です。

そして、その先にあるのが、水素コミュニティ社会。
今春発売された家庭用燃料電池「エネファーム」は、その先駆けとなるものですが、
さらなる未来においては、水素の供給を通し、
集合住宅で燃料電池を利用したり、
燃料電池自動車が利用できる社会の実現を目指します。

一人ひとりの快適な暮らしのために、
そして、かけがえない地球環境を次世代に残すために、
私たちは、エネルギーの未来予想図を描きながら、
日々の仕事を通じて、低炭素社会を実現していきます。

目次

●社長メッセージ	2
●私たちのCSR。	3
●天然ガスに期待される役割と私たちの責任。4 東京ガスグループ中期経営計画とCSR CSR推進体制	4
●つなげて、拡げて、確かなチカラに。6 ステークホルダーとの絆を結び、 LNGバリューチェーン。	6
●LNGバリューチェーンを支える人たち CSR最前線	8
●TOKYO GAS CSR Activities	
保安・防災への取り組み	12
東京ガスライフパル始動 —お客さまの安心・安全を守る現場第一線	
環境への取り組み	14
エネルギーをつかう家から、つくる家へ。 —家庭でできる地球温暖化対策	
パートナーシップの構築	16
SAVE YOURSELF キャンペーン —NPOとともに進めた協働事業	
数字で見るCSRハイライト2008	18
●ステークホルダーとともに	20
お客さまとともに 株主・投資家とともに 取引先とともに 従業員とともに	
●コーポレート・ガバナンス	24
●環境方針と環境保全ガイドライン	26
●情報開示／主な外部表彰	27
●東京ガスグループ経済報告	28
●東京ガスグループのコミュニケーションツール	29

本冊子は、東京ガスグループが事業活動を通じて「企業の社会的責任（CSR）をどのように果たしているか」、「大切にしていることは何か」を、東京ガスグループを取り巻くすべての方々（ステークホルダー）に分かりやすくご紹介するものです。より詳しい内容はWEBサイト「東京ガスグループCSR報告書2009」をご覧ください（29ページ参照）。

つなぐ、むすぶ、ささえあう。

社長メッセージ

東京ガスグループは、本年4月からスタートした新しい中期経営計画の中で、日々の事業活動を通じてCSRと公益的使命を果たしていく「CSR経営」の推進を明確化し取り組みを進めています。この中期経営計画は、天然ガスをコアとする「総合エネルギー事業」の展開を通じ、当社グループがお客さまや社会から常に信頼され発展し続けると同時に、社会の持続的成長にも積極的に貢献していくことを目指しています。

近年、環境保全に対する市場や社会からの要請の高まり、エネルギー価格を含めた原料調達環境の変化、エネルギー間の競争激化など、エネルギーや環境を取り巻く情勢は大きく変化してきています。こうしたなか、当社グループは、環境性に優れた天然ガスの付加価値をさらに高め、一層の普及拡大を図るとともに持続可能な社会の形成に貢献してまいります。具体的には、本年5月に開始した家庭用燃料電池「エネファーム」の販売や、太陽光・太陽熱を取り入れた環境価値を高めるシステムの開発・普及、バイオガスをはじめとする新エネルギー利用の推進など、「低炭素社会」の構築に向け、環境経営のトップランナーとして積極的な役割を果たしてまいります。また、お客さまの「安心・安全」を第一に考えた保安対策や防災対策も一層強化してまいります。

本年10月には、お客さまのガス設備・機器の定期保安点検はじめ、あらゆる接点機会での積極的なコミュニケーションを通じ、お客さまのライフスタイルやニーズに応えるサービスをワンストップで提供する「東京ガスライフバル」体制が確立いたします。お客さまの生活や地域社会に密着した最も身近なパートナーとして、暮らしに関する「ご満足」の向上に努めてまいります。

企業は「社会の公器」であり、社会の求める価値を提供し続けることにこそ存在意義があります。真心をこめて仕事をすれば、お客さまや社会から感謝され、それがまた人や社会のために尽くそうという姿勢につながる、その過程で社員も会社も成長します。そうした好循環をつくることを基本において「CSR経営」を実現していきたいと考えています。

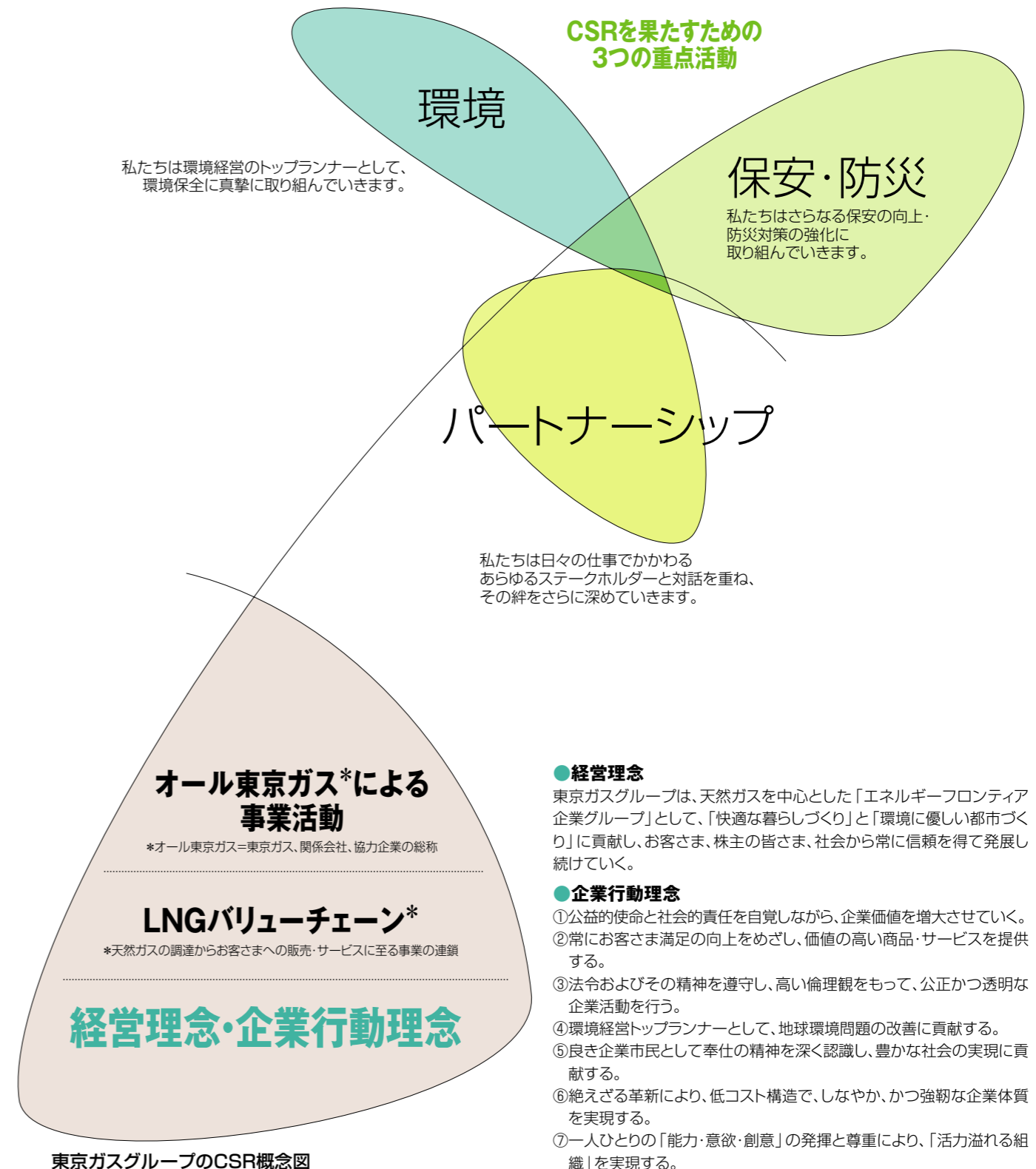
代表取締役社長

鳥原光憲

私たちのCSR。

本業を通じたCSRという基本的な考え方のもと、「保安・防災」「環境」「パートナーシップの構築」を中心に取り組んでいます。

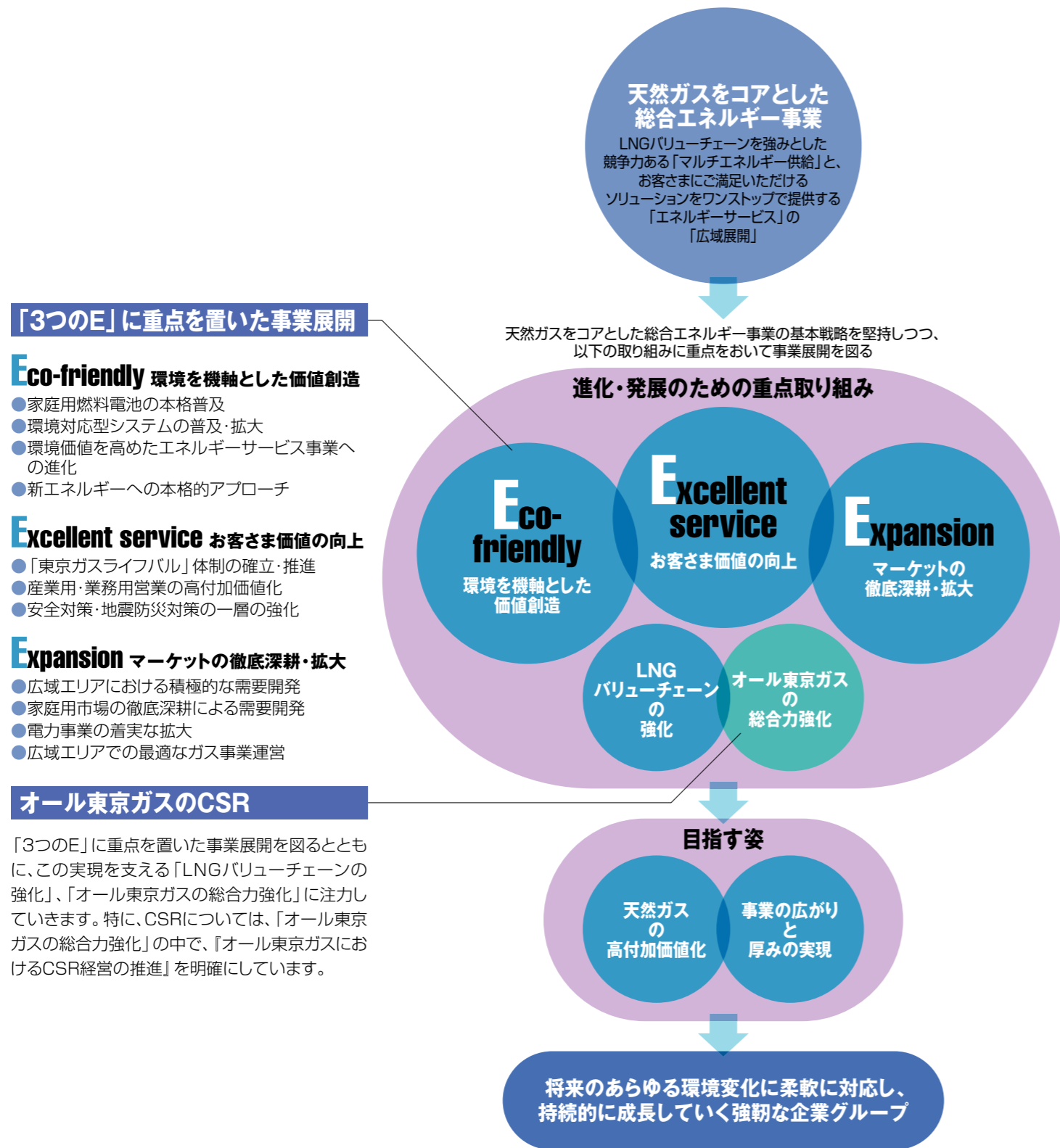
「経営理念」と「企業行動理念」の実現によって、社会的責任を果たしていくことが公益事業に携わる私たちの「仕事」そのものであり「使命」です。東京ガスグループは「保安・防災」「環境」「パートナーシップの構築」をCSRの重点活動として継続的に推進し、地域社会との信頼関係構築を第一に、日々の事業活動を通じて社会に貢献していきます。



天然ガスに期待される役割と私たちの責任。

「2009年度～2013年度 グループ中期経営計画」によってより明確に打ちだされた、オール東京ガスのCSR経営。

「社会の公器」としてステークホルダーの信頼に応えるため、20年、30年先の「エネルギーの未来予想図」を描き、低炭素社会を実現していきます。



オール東京ガスのCSR

「3つのE」に重点を置いた事業展開を図るとともに、この実現を支える「LNGバリューチェーンの強化」、「オール東京ガスの総合力強化」に注力していきます。特に、CSRについては、「オール東京ガスの総合力強化」の中で、「オール東京ガスのCSR経営の推進」を明確にしています。

「2009年度～2013年度 グループ中期経営計画」の詳細は、当社ホームページ <http://www.tokyo-gas.co.jp/Annai/plan/plan09-13.pdf> をご覧ください。

ステークホルダーと語る新中期経営計画

2009年3月3日、東京・銀座の「Studio+G GINZA」において「東京ガス ステークホルダーダイアログ2009」を開催しました。テーマは「2009-2013 グループ中期経営計画におけるCSR～その実現に向けて」。川北秀人氏 (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者) の司会進行のもと、エネルギー政策や環境・CSR経営の専門家、消費者問題に取り組む有識者など6名のゲストにご参加いただき、東京ガスの果たすべき役割や今後への期待など、中期経営計画の実現に向けた課題についてご提言いただきながら、活発な議論が交わされました。



こんなご意見をいただきました

- 東京ガスが目指す、2050年のベストエネルギーミックスの絵姿（最も現実的かつ理想的なエネルギーの使い方）をきちんと示してほしい。
→「2030年 エネルギーの未来予想図」として、低炭素社会に向けたエネルギーのあり方をご紹介します（1ページ参照）。
- 天然ガスとCO2の削減が結びつかない消費者が多い。天然ガスの環境優位性を、業界ベースでPRしていくべき。
- お客さまのご要望やご不満をどう吸い上げていくのか、その中での「東京ガスライフバル」の役割は。
- 火を扱うことが人類を人類たらしめたのであり、人間は炎を手放してはいけない。火の扱い方を知らない子どもが増えると、リスクも増えるのではないかと。
- ガス販売量の数値目標があるが、それを達成した場合のCO2排出量も併記するべきでは？

*いただいたご意見や課題を社内で共有し、それぞれの分野で活かすことで、中期経営計画を確実に実行していくと同時に社会的責任を果たしていきます。

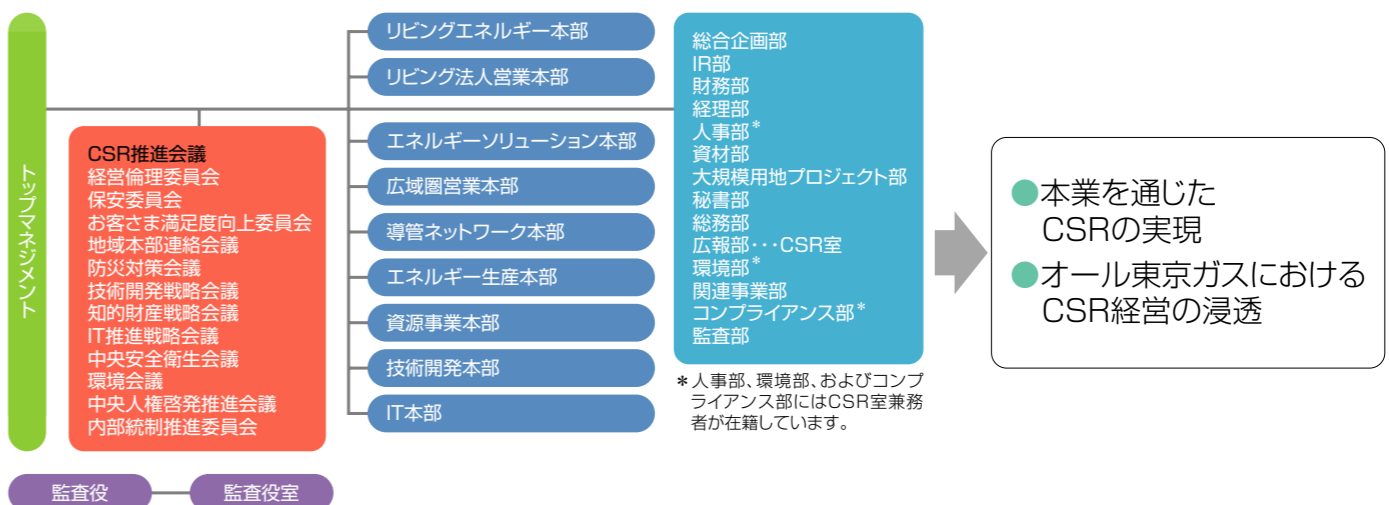
- ファシリテーター（進行）
川北 秀人様
IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者
- ステークホルダー（五十音順）
石井 彰様
(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 首席エコノミスト
石田 建一様
積水ハウス(株) 環境推進部 温暖化防止研究所 所長
河口 真理子様
(株)大和総研 経営戦略研究所 主任研究員
川野辺 浩司様
(株)三越伊勢丹ホールディングス 管理本部総務部 コーポレートコミュニケーショングループ グループ長
中原 秀樹様
グリーン購入ネットワーク会長・東京都市大学環境情報学部教授
三村 光代様
(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 最高顧問
- 東京ガスからの参加者
岡本 毅
代表取締役副社長執行役員 (CSR推進会議議長)
小林 信久
リビングエネルギー本部 リビング企画部長
原文比古
エネルギーソリューション本部 エネルギー企画部長
渡辺 尚生
執行役員 技術開発本部 技術戦略部長
富田 鏡二
環境部長
幡場 松彦
執行役員 総合企画部長
尾花 秀章
広報部長

*参加者の役職などは開催時のものです。

本ダイアログの様子は環境gooにて詳しく紹介しています。
<http://eco.goo.ne.jp/business/event/tokyogas2009/>

CSR推進体制

東京ガスでは、各本部の連携を深めながら全社的にCSRを推進するために、トップマネジメントに直結した体制でCSR推進会議（総合企画部と広報部CSR室の共同事務局）を運営し、「本業を通じたCSRの実現」と「オール東京ガスにおけるCSR経営の浸透」を目指しています。

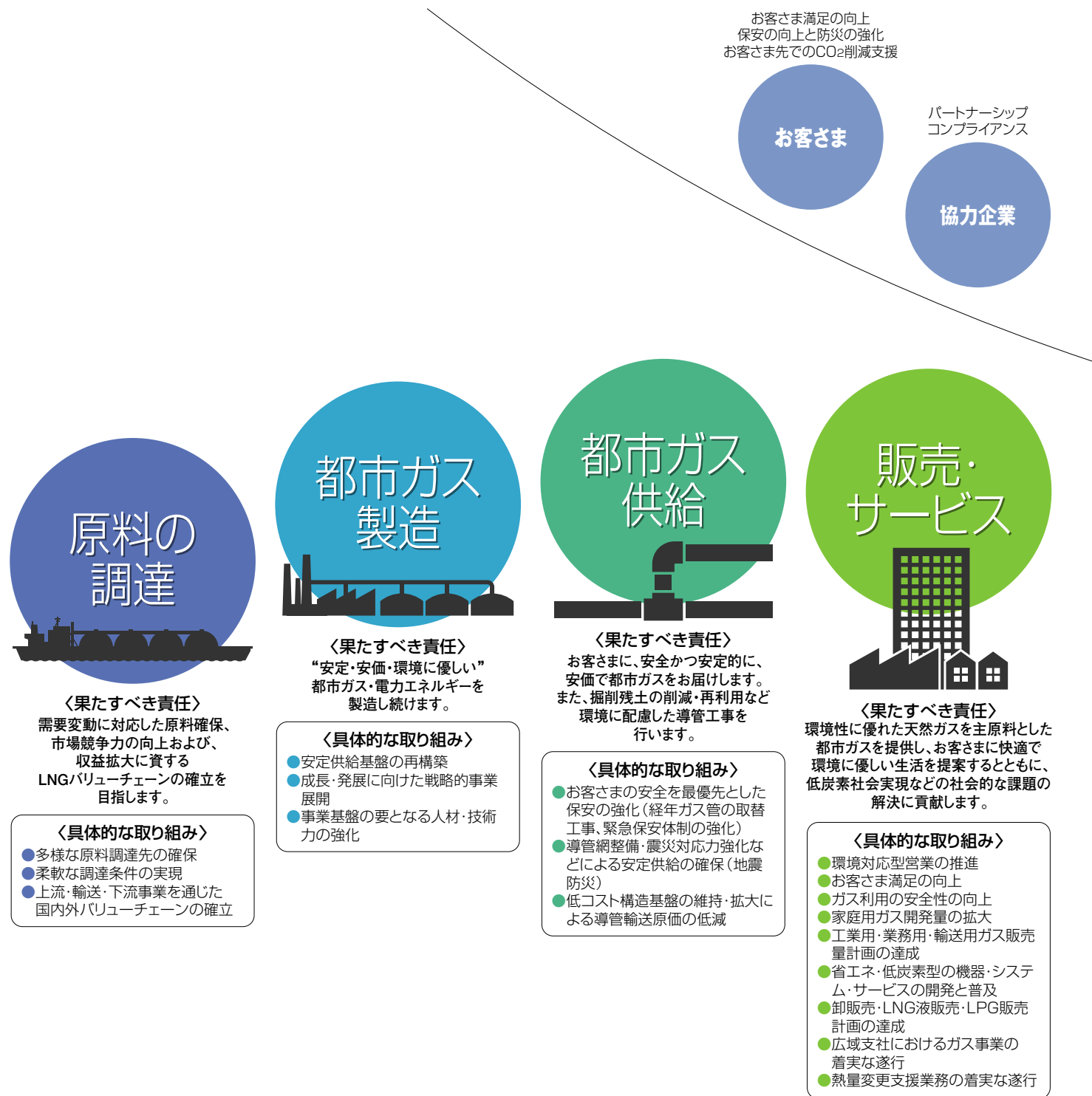


*人事部、環境部、およびコンプライアンス部にはCSR室兼務者が在籍しています。

つなげて、拡げて、確かなチカラに。

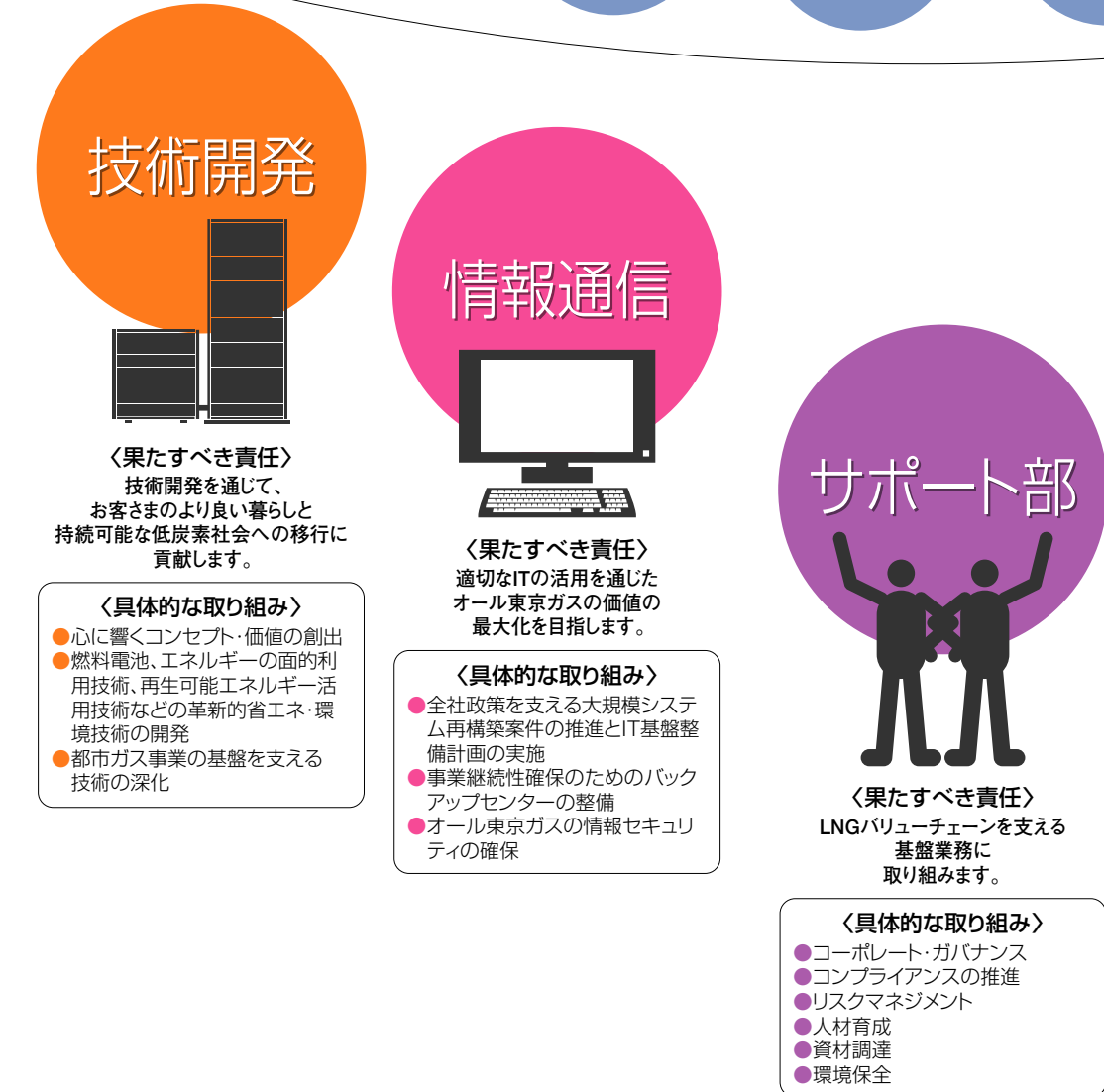
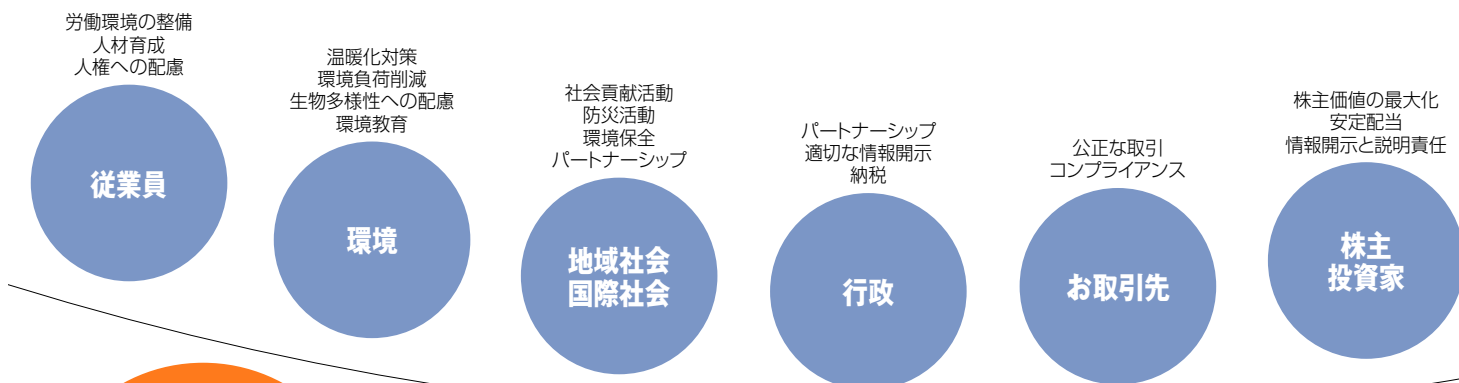
ステークホルダーとの絆を結ぶ、LNGバリューチェーン。

東京ガスの各ビジネスユニットとそれを支えるサポート部門、さらに関係会社と協力企業との連携による「オール東京ガス」体制で、原料の調達からお客さまにガスをお届けするまでの「LNGバリューチェーン」を形成しています。あらゆるステークホルダーの期待に応え、「安心・安全・信頼」のブランド価値をより確かなものにしていきます。



LNGバリューチェーン

ステークホルダー



LNGバリューチェーンを支える人々たち

C
S
R
最前線

毎日の仕事そのものがお客さまや社会とつながっています。私たちの仕事を通して果たす社会的責任とその取り組みをお伝えします。

LNGバリューチェーンはここから始まります
東京ガスの長期契約に基づくLNG調達先



安全を最優先する運航管理

原料の調達

現在、6か国10プロジェクトからLNG（液化天然ガス）を輸入している東京ガス。その輸送に関しては、東京ガスグループの東京エルエヌジータンカーが保有する7隻のプロジェクト専用船・自社管理船を活用し、効率的かつ柔軟な配船を実現している。

「東京エルエヌジータンカーでは、ガスの安定・安全供給ということを常に意識しています。当社は船会社と契約して船を運航していますが、その契約を結ぶ際には、コスト面も考慮しますが、安全運航のレベルが保てるかを最重要視しています。安全を犠牲にすることなく、低コストを実現するバランスを常に意識しています」

同社では、海上交通に起因する環境問題として近年問題視されているバラスト水*についても、自主規制を敷いて処理をするなど、東京ガスグループの一員としての責任をしっかりと受け止めながら、日々の業務に取り組んでいる。

*船体安定のため積み込む海水。海外の港での排出により生態系への影響が懸念されている。



東京エルエヌジータンカー株式会社
横山 のぞみ

24時間365日眠らぬ工場を支える誇り

都市ガス製造

海外から運ばれてきたLNGを受け入れ、気化・熱量調整・付臭などの製造プロセスを経て、都市ガスとして送出しているのが都市ガス製造工場。3つの工場（根岸、袖ヶ浦、扇島）



のコントロールセンターでは、それぞれにオペレーションチームが昼夜2交替で詰めており、需要変動にあわせて日々ガスの製造量を調整している。

「いかなる時も、一定品質の都市ガスを供給し続けなければいけないんだという思いが強くあります」と話すのは扇島工場でのオペレーションを担当している南幅。さらに、そうした気持ちは、ガス製造にかかわっている人はみな同じだともいう。

「もし強毒性のインフルエンザが発生した場合、私たち工場の所員はたとえ1か月間泊まり込みになったとしても、それに文句をいう人はいません。何かあった場合は、ガスの安定製造・供給を第一に考える。それはごく普通に職場の文化として浸透しています」



扇島工場
南幅 岳城

地下の大動脈を見守る。プロフェッショナル

都市ガス供給

首都圏を中心に約800kmにわたって広がる高圧ガス輸送導管網。都市ガス輸送の大動脈であるだけに、その維持管理により厳しい監視体制を敷いている。地下に埋設された導管の近くで下水道などの工事が行われないか、導管上の路面に沈下現象がないか、地震などによる影響はないか等々、注意を怠ることができない。全長約800kmのうち神奈川県内の約140kmを担当する神奈川県支所では、昼2回、夜1回全路線を車でパトロールしながら、高圧ガス輸送導管の維持管理を行っている。

「先輩が、高圧ガス輸送導管の保安イコール市民の安全だ、と聞いていましたが私もそう思います。この先100年、200年と導管を維持し続けなければならず、理想かもしれませんが、導管を埋設した時点と同じ状態に維持するというよりも、それよりもっと良くしていくという考えを持っていないといけません。もちろん、ガスを供給する上で皆さんの安全や生活を守っているという自負はあります」



南関東幹線管理センター
矢崎 治人

直に人の耳・声でお応えしています！

販売・サービス

年間460万本の電話応対をしているお客さまセンター。東京ガスではそのすべてを人の耳・声で対応しており、プッシュボタン操作による機械音応答は行っていません。

「当社は、ガス漏れなど緊急を要するご用件やガス使用・停止、料金、工事、修理、販売などのご用件を正確に承り、次工程である各担当部所に早く、正しく、わかりやすく伝えることをモットーに業務を引き継ぐ体制をとっています」

「日々、お客さま一人ひとりと向き合い、コミュニケーションするなかでいかに安心・安全・信頼をご提供できるかを心がけています。そのためにお客さまのお話を良くお聴きして何が望みなのかきちんと受け止めることが大切だと思っています」

「お客さまからいただくさまざまなご意見・ご要望は会社の財産となります。そのお客さまの声に耳を傾けることは、オール東京ガスがお客さま本位の企業グループとして、お客さまから選ばれ続けるために最も大切なことだと考えております。そのためにも貴重なお客さまの声を社内にしっかり伝えていくことが、お客さまセンターの義務であると思っています」



*東京ガスお客さまセンターでは、お客さまとのコミュニケーションを大切に考え、電話応対者をオペレーターではなく「コミュニケーションター」と呼んでいます。

東京第2お客さまセンター
加藤 智美

保安・防災への取り組み

多様化するお客さまのライフスタイルやニーズにお応えするため、2008年4月より、エネスタ、東京ガス・カスタマーサービス、東京ガスの三者が一体となり、「東京ガスライフバル」という地域密着型の新会社が順次立ち上がっています。これまで三者が分担していたサービスをワンストップで提供し、お客さまの快適な暮らしづくりに貢献することをめざし、日々業務に取り組んでいます。ここでは、オール東京ガスの事業の柱である「保安・防災」について、東京ガスライフバル新宿の担当者に話を聞きました。

お客さまの安心・安全を守る現場第一線

東京ガスライフバル始動

お客さまに会うことは保安を確保すること

「地域の顔」として活動し始めた東京ガスライフバル。新会社になってからは、点検作業のなかでもお客さまとのコミュニケーションを強く意識するようになったといいます。「従来は、異常がないかという点を重視して作業をしていましたが、今は作業内容の一つひとつをわかりやすく説明しようという心がけをしています。そのため、場合によってはその作業と一緒に見ていただき、お客さまの安全に対する意識の向上にもつなげていきたいと思っています」。ガス事業法で定められた「ガス設備定期保安点検（以下、定保）」では、東京ガスをご利用の皆さまへ、暮らしの安心を提供するとともに、ガスに関する環境性、安全性、利便性について正確な情報もお伝えします。

東京ガスライフバルでは、定保を専門の職員が担当しています。3年に1度のお客さま宅への訪問に際しては、1週間前のご訪問予定日を記したチラシを配布、当日も電話で再確認をしていますが、実際にはお留守の場合もあり、1人の担当者が点検作業を行えるのは1日10～15件ほど。しかし、「お客さまにお会いすることは保安を確保すること」という考えから、平日以外に第2・第4の日曜日にも対応する体制を取り、夜の営業が多い繁華街では巡回時間を遅くするなど



の工夫を重ね、どのようにしたら1件でも多くのお客さまとお会いすることができるのか、メンバー全員で考えながら巡回を行っています。

より強化された体制で安心・安全を生み出す

安全強化のため、2008年度からは「所有機器調査の対象機種拡大」と「CO測定対象機種の拡大」も開始されています。「所有機器調査の対象機種拡大」は、これまで法令に基づき湯沸器と風呂釜のみとしていた調査対象機種を、すべての家庭用都市ガス燃焼機器に拡大する取り組みです。2006年に起きたパロマ工業製湯沸器事故の教訓を活かし、お客さまがお使いのすべての器具の機種、メーカー、形式名、製造年月を控えています。「これにより点検時間は以前より長くなるようになりましたが、今後たとえば修理などが発生した場合、東京ガスと連携をとり、今まで以上にスピーディーかつ、適正な対応が取れるようになります」

また、「CO測定対象機種の拡大」も安全確認のため測定の対象を従来の小型湯沸器から、大型湯沸器や風呂釜（製造から15年以上経過したもの）に拡大する取り組みです。「CO測定はガス事故防止に不可欠な点検で、新宿区内では毎月15～20件の異常を見つけられています。危険度が高い器具は即時使用禁止としなければいけないため、お客さまにご不自由をおかけするのは辛いですが、事故を未然に防ぐためご理解いただいています」。このように、足を使った地道な点検作業が、お客さまの安全を守っているのです。さらに、お客さまのさらなる安心・安全のため、東京ガスライフバルはお客さまがお持ちのガス機器情報を適性に東京ガスと共有し、メンテナンス・点検で活用する体制を整備しています。

保安・防災2008トピックス

Siセンサーが標準機能に



Siセンサーを搭載したガスコンロ

天ぷら油火災の撲滅を目指して、東京ガスでは2008年3月から発売するガスコンロのすべての火口*1に「安心センサー（調理油過熱防止装置）」と「消し忘れ消火機能」を標準装備しました。これにより、1987年から全火口に標準装備している「立ち消え安全装置」とあわせて、3つの安全機能が標準機能となっています。高い安全性を備えたこのコンロは、お客さまに安心（Safety）、便利（Support）、笑顔（Smile）を約束する、賢い（Intelligent）センサーを搭載したコンロという思いを込め「Siセンサーコンロ」と名づけられました。2008年4月からはガス業界においても、上記3つ

の安全機能の搭載が自主基準として義務づけられ、業界全体でSiセンサーコンロの普及促進が図られています。*2
東京ガスでは、そのほかにも「鍋無し検知機能」や「焦付消火機能」「チャイルドロック」などさまざまな安心・便利機能がついたガスコンロを用意し、お客さまの家族構成やライフスタイルに合わせたご提案をしています。

*1 持ち運びできる卓上型の一口コンロを除く
*2 2008年10月からはガス事業法により「調理油過熱防止装置」と「消し忘れ消火機能」のすべての火口への搭載が義務化。

防災シンポジウム開催



防災フェアの様子

東京ガスは、大地震などの非常事態が発生した場合においても、二次災害を防止しつつ事業を継続して都市ガスを安定供給できるよう、さまざまな取り組みを行っています。そのひとつが、1983年から毎年、東京ガスの全社員および関係会社、協力企業を含めたオール東京ガスで実施している「総合防災訓練」です。2008年度の訓練では、首都直下地震が発生した際の状況を具体的にイメージし、震災発生直後の初動措置や被害等情報の収集、ガス漏れ対応などをはじめとする、さまざまな訓練を行いました。

また、9月1日から4日間、本社ビルで行った「防災フェア」では、防災関連のパネル展示や防災グッズの展示・販売などを行うとともに、最終日には「防災シンポジウム」も開催。「人と防災未来センター」の語り部である秦詩子氏による、阪神・淡路大震災発生直後の被災者の心理状況や救助活動の現実などについてのお話や、NPO法人代表と東京ガス社員が「市民の防災対策の重要性」というテーマで行ったパネルディスカッションでは、参加者（279名）が防災対策の大切さを再認識しました。

安全文化の醸成と継承のために



「安全を祈る現場おやじの苦（九）言」と題した首都圏西導管事業部長の講演

東京ガスと東京ガス協力企業会（TOMOS）*は、過去に発生した事故から得た教訓を忘れることのないように「安全大会」を毎年開催しています。本大会は、ガス工事関係者が一堂に会して行われ、2008年度は、経営者、職場管理者を含めて東京ガス社員170名およびTOMOS社員318名の合計488名が参加しました。当日の講演では、首都圏西導管事業部長より「安全を祈る現場おやじの苦（九）言」と題し、過去に発生した事故を決して風化させてはならないこと、管理者自らが現場に足を運び感性を磨くこと、危険・事故の見取り稽古の必要性など、経営者並びに職場管理者としての心構えが語られました。また特別講演では、関東学院大学の

井上枝一郎教授に「ヒューマンエラーと対策としての組織文化」をテーマとし、「事故が発生した背景にある根本的な原因に対しては、技術的な対策に偏らず組織文化の再検討が必要である」旨の講演をいただき、参加者は重大事故ゼロを改めて誓いあいました。このほか、導管ネットワーク本部では、過去の事故事例を書き込んだ「ガス事故カレンダー」を毎年作成し、関連する事業所や協力企業に配布・掲示するとともに事故事例研究を行うことで、安全に対する意識や再発防止策を徹底するなど安全文化の醸成に力を入れています。*東京ガスのサービス窓口「東京ガスライフバル」「エネスタ」「エネフィット」「東京ガス・カスタマーサービス」、工事関連会社の約200社が参加。

環境への取り組み

2009年は本格的な普及に向けた記念すべき「エネファーム元年」です。地球に優しい天然ガスの新しい使い方「エネファーム」。

家庭でできる地球温暖化対策

エネルギーをつかう家から、つくる家へ。



エネルギー利用効率80%のエネファーム

都市ガスから取り出した水素を、空気中の酸素と化学反応させることで電気をつくる燃料電池「エネファーム」。「電池」といっても電気を貯める箱ではなく、発電すると同時に生まれる熱でお湯もつくれる優れたシステムです。電気は大規模発電所でつくって送られるため、家庭に届くまでに多くのエネルギーが失われ、発電用に使われたエネルギーに対して利用効率はわずか37%ですが、エネファームは自宅に置いて発電するため排熱の有効利用もでき、エネルギー利用効率は70~80%ととても高くなります。使うところで電気をつくると、無駄がないため地球にとっても優しいのです。

(算出基準)
エネルギーの使用の合理化に関する法律
HHV (高位発熱量) 基準
HHV: 燃料ガスを完全燃焼させたときに生成する水蒸気の凝縮潜熱を発熱量に含めた熱量

1台で1.5トンのCO₂を削減

エネファームが持つさまざまなメリットのなかで、環境面から注目されるのは、ご家庭のCO₂排出量を大幅に削減するという点です。従来のシステム(火力発電所から来る電力+従来給湯器)と比較すると、CO₂の排出量は約45%(約1.5トン)削減できますが、これは約3,300m²のブナ森林が1年間に吸収するCO₂の量に相当します。また、発電時に生まれる熱で自動的にお湯をつくるため、お風呂やキッチンはもちろん、床暖房、ミストサウナ、温水ラジエーターなどにも利用できます。エネファームは、快適に、楽しみながら省エネ・省CO₂を実現できるのです。

(注)ブナの天然林のCO₂吸収量原単位=4.6[t-CO₂/ha・年]
出典:日本林業協会資料

環境意識の向上にも大きく寄与

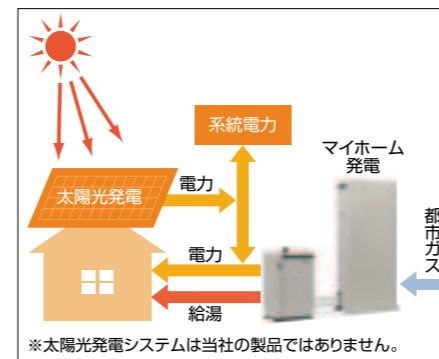
本格的な販売に先立ち、東京ガスでは2005年から2008年度にかけ、累計約800台のシステムを実際のご家庭に設置し、さまざまな運転データやお客さまの声を収集してきました。これらの結果は商品開発に反映させていますが、たとえば次のような声があがっています。

「思ったより発電量が多く、電力会社からの購入電力がかなり減りました」「リモコンで、リアルタイムに発電量を見ることができ、子どもたちの節電意識も高まりました」「自分の家に発電所があるという感覚が面白い」等々。

注目すべきは、環境性の高いシステムを家庭に導入すると、そこに住む人たちにも環境を大切にしようという意識が生まれるという事実で、こうした視点からも、エネファームには大きな期待が寄せられています。

環境2008トピックス

太陽光発電と組み合わせたダブル発電



※太陽光発電システムは当社の製品ではありません。
ダブル発電のイメージ図

家庭用分野の省エネルギーに大きく貢献するマイホーム発電には、「エネファーム」のほかに都市ガスを使ってガスエンジンを動かし電気と熱を取り出すシステム「エコウィル」があり、これらのシステムは今話題の太陽光パネルと組み合わせることも可能です。この組み合わせ(ダブル発電)によって、年間で約4.2トンものCO₂を削減*でき、さらに省エネ・省CO₂になるのです。

オール電化住宅の場合、太陽光パネルを設置しても、使用電力量が多いため、せっかく太陽光で発電をしても大半が自家消費されてしまいます。ダブル発

電住宅なら、給湯・暖房は排熱を利用し、厨房にも電気を使用しないため、オール電化住宅に比べて電力消費量が抑えられるという特徴があります。ダブル発電は、自宅で使用する以上の電力を発電することもでき、環境性にとても優れた組み合わせなのです。

このほか、太陽熱を有効利用するシステムの研究開発も進めています。東京ガスでは、天然ガスと太陽エネルギー、2つのクリーンなエネルギーを使った、快適で地球にも優しい暮らしをこれからも提案し続けていきます。

*太陽光発電(4kW)年間発電約4,000kWhとして試算

バイオガス回収実証試験始まる



乾式メタン発酵システム実証試験設備

再生可能エネルギー利用の積極的な取り組みの1つとして2007年度より江東区および(財)東京都環境整備公社と共同でバイオガス回収実証試験を実施しています。2008年2月から2009年3月にかけて、学校給食の残飯ごみからバイオガスとバイオエタノールを同時回収する実証試験を行いました。

2009年3月からは次なる取り組みとして、欧州で実用化が進んでいる「乾式メタン発酵法」*による実証試験を開始しました。この試験は、事業系ごみ(オフィスビルや商業ビルから出される生ごみやリサイクルに向かない紙ごみなど)からバイオガスを回収するもので、環

境省の「地球温暖化対策技術開発事業」の採択を受け実施しています。

江東区清掃工場の敷地内に建設された試験設備では、現在1日300kgのごみをタンクで発酵させて、バイオガスを回収しており、目標とするガスの回収量はごみ1トンあたり150Nm³。2011年2月までの実証実験を通じて、事業系ごみという都市型バイオマス資源を有効利用するための最適なシステムの構築を検討し、都市部におけるバイオガス製造・活用の実用化を目指します。

*水分の少ない状態でバイオマスからメタンを生成する技術で、紙ごみと生ごみを併せて処理することが可能。

「エネルギーホームドクター」のトライアル実施



「エネルギーホームドクター」紹介リーフレットと「省エネ診断書」

家庭部門のCO₂排出量を削減するため、東京都東久留米市、西東京市、清瀬市の戸建住宅にお住まいで東京ガスをお使いのお客さまを対象に、各家庭における省エネルギーのアドバイスを無料で行う「エネルギーホームドクター*」サービスを東京都と連携し、2009年4月からトライアルで始めています。東京ガスは、2008年から省エネルギーに関するアドバイスを行う診断員の育成を行っており、エネルギーホームドクター資格研修を修了した診断員がお申し込みいただいたお客さま宅を訪問し、省エネルギー行動の

アドバイス、省エネルギー機器の導入効果の紹介などを行います。2010年度もサービス地域を拡大してトライアルを継続し、アドバイスの内容や効果について検証していきます。

企業向け省エネルギー診断サービス「TGグリーンモニター」ではすでに高い評価を得ている東京ガスですが、さらなるCO₂排出削減実現を目指し、今後は一般家庭向けの省エネルギー診断サービスにも取り組んでいきます。

*エネルギーホームドクターは東京ガスで商標登録しています。

パートナーシップの構築

公益性の高い企業である東京ガスは、地域の皆さまやステークホルダーの皆さまとともに歩み、社会の発展に貢献することを重要な課題の一つとして取り組んでまいりました。今回紹介するのは、NPOとの協働により広がりを見せた取り組みの一例です。

— NPOとともに進めた協働事業

SAVE YOURSELF キャンペーン

まず、あなた自身が 生きていること

震災発生時は「お客さまの安全を守ること」と「インフラを守る」ため、東京ガス従業員は、各事業所にたどり着くことを当然の使命として強く認識しています。しかし、そのためには、自分自身の安全の確保が大前提となります。自分自身と家族の安全を守ってはじめてガスの復旧活動が行えるのです。そこで実施されたのが、被災軽減のための取り組み「SAVE YOURSELF (まず、あなた自身が生きていること)」キャンペーンです。

このキャンペーンでは、東京ガスのすべての社員・準社員・役員約1万人に対し、「街を守ること」「生活を守ること」「大切な人を守ること」というメッセージが入った3枚組の大判ハンカチ、そして被災に備えての普段からの取り組み方法を紹介したブックレットが配布されました。

また、9月1～4日の4日間は、SAVE YOURSELFキャンペーンの一環としてNPO法人プラス・アーツの協力を得て、本社にて防災フェアを開催。その後は、社内のイントラネットで防災グッズを販売するなど継続的な取り組みを進めています。さらに、ハンカチとブックレットに描かれたイラストレーター寄藤文平氏のイラストが好評だったのを受けて、このブックレットをお客さま向けの防災啓発ツールとして再編集し、現在配布をしています。

従業員、そしてその家族の防災意識の向上があつてこそ、「震災時のお客さまの安全とインフラを守る」という使命が果たされることを強く再認識させたキャンペーンです。



「パートナーシップ大賞」 グランプリ受賞

東京ガスは、これまでも地域に密着した防災フェアを、各地で定期的で開催していますが、2006年からはNPO法人プラス・アーツと提携し、新たな取り組みも始めています。関東地域では初の実施となった親子を対象とした「イザ!カエルキャラバン!」。ガスメーターの復帰方法を描いた缶入り非常用サクマドロップスの各種イベントでの配布、そしてSAVE YOURSELFキャンペーンで社員向けに作成したハンカチやブックレットの啓発ツールなどです。こうした、新しいカタチの一連の取り組みに対し2008年11月、NPOと企業の優れた協働事業として、NPO法人パートナーシップ・サポートセンターより「第6回パートナーシップ大賞」グランプリを受賞しています。

「保安・防災」をテーマとした、地域の行政・住民・ボランティア・NPOなどとのパートナーシップの構築は、東京ガスグループの重要な課題であり、これからもより積極的に取り組んでいきます。

パートナーシップ2008トピックス

好評! 託児つき料理教室



NPOのスタッフと安心して遊ぶ子どもたち

東京ガスでは、さまざまなタイプの料理教室を開催していますが、毎回募集開始と同時に予約で満席となるのが「託児つき料理教室」です。料理教室のかたわらに「臨時託児スペース」を併設することで、「子どもが小さくて日ごろは料理教室に参加できないけれど、家族のために食生活を見直したい」と考えている方々にもご参加いただけます。

キッチンランド川崎で開催した「週末ふたりでクッキング『働くパパ&ママお料理教室デート』託児つき!」は、1歳以上の未就学児のお客さま

がいるご夫婦を対象とした料理教室で、3時間の料理教室が終わるまで、NPO法人フローレンスのスタッフが別室でお客さまをお預かりするプログラムです。ほんのひとときですが、子どものことを心配しないでゆっくりと料理と食事を楽しめると、とても好評でした。また、託児室ではお預かりするお客さまの年齢と人数構成により、対応するスタッフ数も変わります。ご両親に安心して料理教室に参加していただくため、NPOと連携し万全の体制を取っています。

TABLE FOR TWO —ヘルシーメニューで社会貢献—



TFT事務局認定のヘルシーメニューで昼食

東京ガス本社の社員食堂では、2009年3月より、開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病に同時に取り組む「TABLE FOR TWO」プログラムを実施しています。

TABLE FOR TWOは、NPO法人TABLE FOR TWO International (以下、TFT事務局)が開発したプログラムで、世界の67億人の人口のうち10億人が飢えに喘ぐ一方で、10億人が肥満など食に起因する生活習慣病に苦しんでいるという深刻な食の不均衡を解消するために創設されました。具体的には、社員食堂においてTFT事務局

局認定のヘルシーメニューを購入すると、1食あたり20円がTFT事務局に寄付され、開発途上国の子どもたちが食べる学校給食1食分に充てられます。一方、ヘルシーメニューを購入した利用者は、栄養のバランスが取れた食事により、肥満やメタボリック・シンドロームなどの生活習慣病を予防できます。

当社では、本プログラムを国際社会における「食」を通じた社会貢献活動の一つとして実施するとともに、社員のさらなる健康増進にも役立てていきます。

どんぐりプロジェクト



どんぐりスクールでの自然体験プログラム

1粒のどんぐりが木になりやがて森になるように、森を元気にすることも、小さなことから始め、その輪を広げていこう——。そんな思いから、東京ガスでは1993年よりNPO法人「どんぐりの会」や行政とともに「どんぐりプロジェクト」を進めてきました。

どんぐりプロジェクトは、秋にナナ科の広葉樹の実(どんぐり)を「拾い」、育った苗木を春に「植え」、夏は草刈や間伐で木を「育てる」という一連の活動を通じて、参加者が自然環境について考えるきっかけを提供するものです。2005年

からは長野県北佐久郡に開設した「長野・東京ガスの森」において、私たちの暮らしと森とのかわりを学ぶ体験型の環境教育活動を行っており、春・夏・秋に、森づくりとさまざまな自然体験プログラムを組み合わせた「どんぐりスクール」を実施しています。

2008年度は、それぞれの季節の「どんぐりスクール」をはじめ、11月には環境エネルギー館で「都会スクール」を開催し、間伐材を「使う」さまざまな木工作業を体験するなど、「どんぐりプロジェクト」の活動は広がっています。



2008年度 事業活動ハイライト

2008年度のオール東京ガスの活動から、CSRの取り組みを紹介します。

— 実感する東京ガスのいま

数字で見える CSRハイライト2008



1億トン

【根岸工場でのLNG累計受入量】

環境に優しい天然ガスに早くから注目していた東京ガスは、1969年、日本で初めてLNGをアラスカから輸入しました。その後、日本のLNG輸入量は年々増大し、根岸工場の受入量は、LNG第一船「ポーラアスカ号」が入港して40年目で1億トンに到達しました。



1,650本

【オール東京ガスで 扇島工場内にて植樹活動】

扇島工場に常駐の東京ガスプラントテック（現、東京ガス・エンジニアリング）、東京ガスビルサービス（現、東京ガスファシリティサービス）、清水建設、JFEエンジニアリングなどと東京ガスが一体となり、2007年度から3年の計画で年間550本の木々の植樹を行いました。この取り組みは、横浜市開港150周年の記念事業の一環である「150万本植樹行動」に協賛したもので、継続した取り組みに対し横浜市より感謝状を授与されました。

*2008年度末時点では1,100本



6カ国 10プロジェクト

【サハリンⅡプロジェクト受け入れ開始】

東京ガスのLNGの長期契約は、「サハリンⅡプロジェクト」からの受け入れ開始により、6カ国10プロジェクトとなりました。天然ガス供給源の分散化により供給安定性のさらなる向上が期待できます。

27ブロック

【東京ガスライフバル設立】

ガスに関する窓口を一元化し、地域の「東京ガスの顔」として、2008年度は27ブロック（23法人）が業務を開始しました。広域地区を除く東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県のエリアを63ブロックに分け、2009年10月にその体制を確立させます。



10周年

【環境エネルギー館開館10周年】

子どもたちの不思議に思う心（センス・オブ・ワンダー）をコンセプトに、エネルギーや環境について楽しく学ぶ、参加体験型の環境学習施設として設立された環境エネルギー館（愛称：ワンダーシップ）が、2008年11月5日に開館10周年を迎えました。開館以来の来館者は130万人を超え、小学校の社会科見学や総合学習の一環としてご利用いただいています。



53,013km

【導管総延長】

中央幹線1期の完成により、首都圏を囲む環状幹線を南北に縦断し連結されたため、供給の安定性がさらに向上しました。東京ガスが保有する導管は791kmからなる高圧導管網に加え、中圧、低圧の導管を含めて地球一周よりも長い約5万3千kmになります。



1,000万件

【東京ガス環境おうえん基金&植樹ツアー】

お客さま件数が1,000万件を達成したことを記念する事業として、日本環境協会に助成金を寄付する基金を設立しました。毎年公募を行い、年間総額1,000万円の助成を、2008年度から2017年度までの10年間実施します。また、記念事業として東京ガス長野の森にて「東京ガスお客さま1000万件記念植樹ツアー」も開催しました。

来るべき水素社会に向け、天然ガスからの高効率水素製造技術を用いて2003年から2009年6月現在までに千住水素ステーションにて製造された累計水素量は、2万4,726Nm³となっています。燃料電池自動車（FCV）の燃費を100km/kg-H₂とすると、走行距離は約22万kmで地球を5.8周することになります。

22万km

【千住水素ステーションでの製造水素による累計走行距離】



4,156台

【マイホーム発電年間販売台数】

省エネルギーとCO₂削減に貢献するため、環境に優しい都市ガスから自宅で「電気」と「お湯」の両方をつくる「マイホーム発電」の開発および普及に取り組んでいます。お客さまにより快適で、より環境に優しい生活をお届けできるよう努めています。

122%

【Studio +G Ginza (スタジオ プラスジー ギンザ) の2008年9月~2009年3月の稼働率】

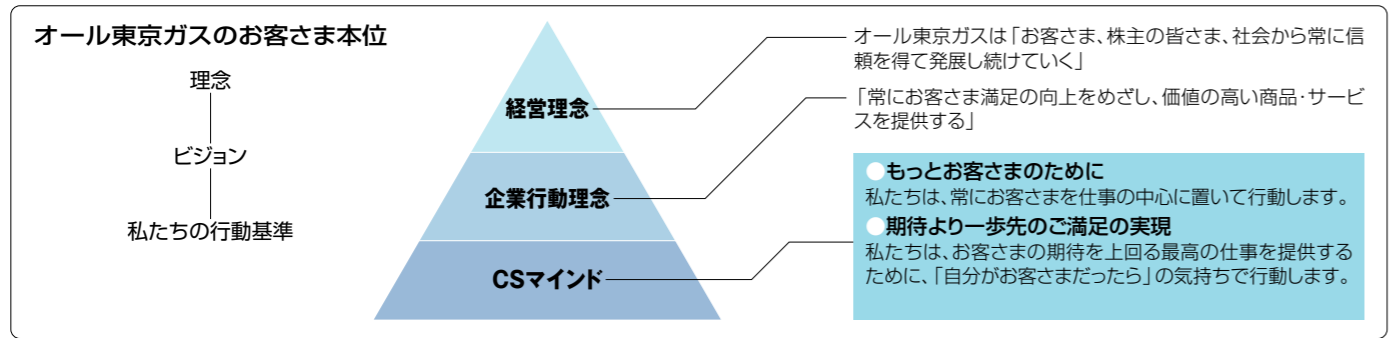
料理研究者やシェフなど、食の分野に携わるオピニオンリーダーを対象にした料理セミナーや共同研究を通じ、「食」の情報発信を行う施設がオープン。料理研究者やシェフ向けの料理セミナー、有名シェフによる食育教室、シェフとのコラボによる調理の研究、最新の調理科学の情報発信などを実施しています。



お客さまとともに

お客さまに選ばれ続けるために、私たちは「自分が何をお客さまに提供したか」ではなく、「お客さまがご満足いただけたか」を大切にしています。こうした考えのもと、オール東京ガスの基本姿勢を「CSマインド」として定め、「私たちの行動基準」のなかに明文化しています。この「CSマインド」は判断基準や行動の指針となるもので、今後もこの内容をオール東京ガスの全員に周知徹底することで「お客さま本位」の企業グループをめざしていきます。

CSマインドのイメージ



CSの向上に向けて

お客さまの声を商品やサービスに反映し、お客さまによる客観的な評価に基づいて、迅速かつ高い品質で改善を進めることが、オール東京ガスでは何より重要であると考えています。お客さまからいただいたご意見・ご要

望は、お客さまセンターへのお電話、インターネット、お客さま満足度調査などを通じて、経営トップまで社内でも共有し、日々の改善活動、品質向上などに積極的に活用しています。

■お客さま満足度向上委員会

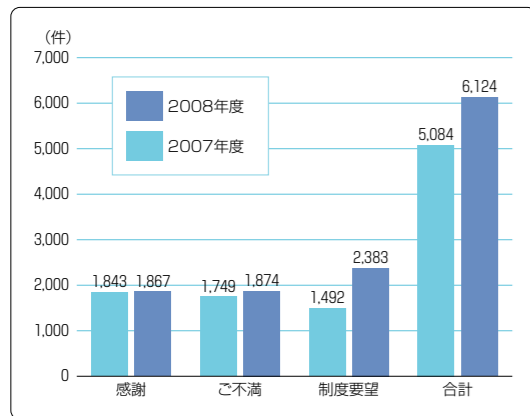
CSの向上を経営上の重要課題と位置づけ、社長が委員長を務め、経営会議のメンバーを委員とする「お客さま満足度向上委員会」を2004年度から開催しています。この委員会では、各現場や部門単位で解決が難しい問題や全社的に対応すべきと考えられる問題について、解決に向けた審議を行っています。加えて、主としてお客さまとの接点業務を多く持つ部門の長で構成される「お客さま満足度向上推進委員会」を設置し、強力にCS向上施策を推進しています。

■お客さまのご意見や課題を現場で集める「アシストメモ」

お客さまの声の収集を強化するために、接点業務従事者が「ポケット版メモ (=アシストメモ)」を携帯し、その場でお客さまのご意見や自ら気づいた課題を書きとめ、改善につなげる取り組みを、東京ガスライフパルを中心に計38カ所へ展開し、全社で改善すべき課題について改善を行いました。2009年度は、さらなるお客さまの声の収集強化と業務改善の推進に取り組んでいきます。

■お客さまの声を活かす

2008年度にいただいた「お客さまの声」は6,124件。内訳は、感謝(30%)、ご不満(31%)、制度要望(39%)でした。お客さまの声は、各部門でさまざまな改善活動に反映し、その改善例はホームページを通じてお客さまにもご報告しています。



<改善例1>

●お客さまの声 指定日口座振替サービス*の申し込みは、日にちの指定だけでもかかわらず書面で申し込みなければならず面倒。電話で受付してほしい。

●改善内容 これまで同サービスのお申し込み受付に関して、慎重を期するため、書面での申し込みを必須としていましたが、設定までに期間を要し、お客さまにご不便をおかけしておりました。このため、ご本人確認の方法について制度の見直しを行い「お電話でのお申し込みが可能」となりました。これによりスピード感をもってお客さまのご要望にお応えできるよう改善を図りました。

*指定日口座振替サービス
毎月のお支払金等のお支払いについて、お客さまがご指定された日に、お客さまがご指定の金融機関、ゆうちょ銀行・郵便局の口座から自動振替させていただくサービスです。

<改善例2>

●お客さまの声 「アメリカン・エクスプレス・カード(アメックス)」でも、ガス料金等カード払いができるようにしてほしい。

●改善内容 これまで、お客さまからご要望の高かった4大国際ブランドを中心に段階的に導入してきましたが、このたびアメリカン・エクスプレス・カードについても新規に契約し、同カードにてお支払いいただくことが可能となりました。これにより、5大国際ブランドJCB・VISA・Master・ダイナース・アメックスがご利用可能となり、より多くのお客さまニーズにお応えできる体制となりました。



ご利用いただけるクレジットカード (2009年8月末現在)

株主・投資家とともに

東京ガスのIR活動は、資本市場とのコミュニケーションを通じて、経営の健全性・透明性を確保するとともに、資本市場の期待を経営に反映させ、東京ガスグループに対する理解と信頼の向上をめざします。

利益配分方針

2009年1月に発表した「2009年度～2013年度 東京ガスグループ中期経営計画」では、5か年合計の営業キャッシュフローを、1兆600億円と計画しています。これに、そのほかのキャッシュインを加えた1兆700億円のうち、14%にあたる1,500億円を株主に配分することを目標とし、中期経営計画

の5か年を通じて、総分配性向*6割を基本方針にしています。配当は、2006年度より年8円の水準を維持しており、今後も利益の拡大に努めていきます。なお、取得した自社株は、消却を基本とし、1株あたりの価値を高めていきます。
*連結当期純利益に対する配当と自社株取得の割合

株主・投資家とのコミュニケーション

東京ガスへの理解を深めていただくために、機関投資家・証券アナリストの皆さまを対象とした決算説明会を年4回開催しており、経営トップによる個別ミーティングも積極的にを行っています。個人株主の皆さまには、配当金通知と同封で、事業内容や決算概要をご報告する「東京ガス通信」を年に2回送付するほか、当社ショールームや工場などの施設見学会を開催しています。今後も継続して、個人投資家の皆さまを対象とした会社説明の場を積極的に設けていきます。

ホームページでは、決算説明会の内容を動画で配信しているほか、決算説明資料を掲載し、説明会にお越しいただけなかった方にもその様子をお

伝えしています。また、機関投資家向けのページと、個人投資家向けのページを設けて、投資家の皆さまのニーズにお応えするタイムリーな情報発信に努めています。

株主・投資家対応実績(2008年度)	
内容	回数
決算説明会および新中期経営計画説明会 *テレホンカンファレンス含む	5
投資家との個別ミーティング (うち海外投資家訪問)	402 (176)
施設見学会(個人株主向け)	8
個人投資家説明会	3

取引先とともに

公益的使命と社会的責任を果たすために、お取引先との関係についても、購買活動の行動基準を定めたり、信頼関係の構築に努めるなどの活動を日々行っています。

購買活動の行動基準

東京ガスは、1992年にオープンかつ公平・公正な購買活動を徹底するため行動基準および基本方針を定め、2000年7月よりこれをホームページ上に公開しています。以降、2005年3月に「環境配慮」「グリーン購入」などに関する項目を追加。2008年7月には「コンプライアンスの徹底」「労働・人権への配慮」などを加えた改訂版を公開しました。

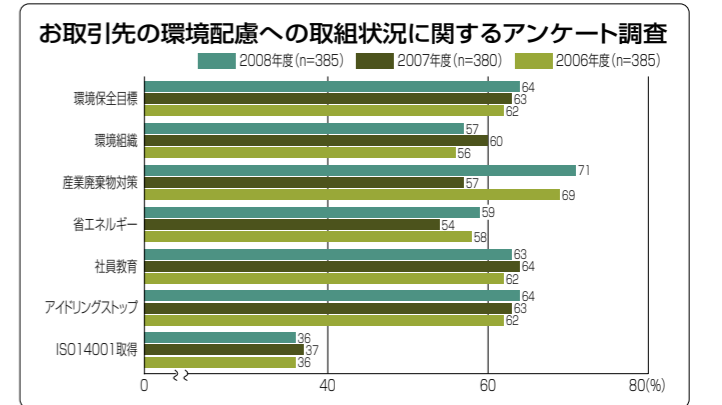
今後も、これらの基準・方針をもとに透明性が高く、公平・公正な取引を基本としたお取引先との信頼関係を確立し、ともに「安心・安全・信頼」のブランド価値の向上に努めていきます。

購買活動の行動基準	
オープン	良質で安全かつ経済的であれば、国内外を問わず幅広く調達することを基本とし、その手続きも理解しやすい簡素なものとしたします。
公平・公正	お取引先については、品質・価格・信頼性・納期の確実性・アフターサービス・既設設備との整合性・技術力・経営状態・CSRへの取り組み姿勢などを総合的に勘案し、経済合理性に基づいて公平・公正に選定します。
相互信頼	公平で公正な購買取引を通じて、お取引先の皆さまとの信頼関係を確立し、相互の発展のもと協働して「安心・安全・信頼のブランド価値」の維持向上に努めます。経済的で安定した都市ガスの供給には、お取引先の皆さまとの相互信頼に基づき、品質の確保を前提に、適正な価格で、納期以内に、安定して供給していただくことが不可欠であると考えます。
CSRへの配慮	(1)コンプライアンス 購買取引は、当社およびお取引先の皆さまの双方が、労働や人権に係る法規を含む全ての関連法規とその精神、社会規範および企業倫理を遵守すべきであると考えます。 (2)環境の保全 循環型社会の実現を目指し、経済的条件に環境性の観点を加え、グリーン購入を推進します。

お取引先とのコミュニケーション

購買活動の行動基準・基本方針に加え、主な調達品目、調達手続きをホームページ上に公開し、随時取引参加の機会を提供しています。お取引先とは、日ごろから面談などの機会に情報を共有し、双方向のコミュニケーションを図っています。

また、毎年お取引先に各社の概要、環境への取り組みなどについてアンケート調査を行っており、2005年度以降は調査項目の中にコンプライアンスへの取り組みに関する項目を追加しました。調査の結果、必要な場合には各社役員と面談を行うなど、コミュニケーションのさらなる充実に努めています。



(注) 調査対象は前年度に一定以上の取引のあるお取引先に限定

従業員とともに

従業員のやりがいを高め、それぞれが個性を十分に発揮できる「働きやすい職場」づくりをめざし、さまざまな制度を整えとともに、制度利用のための意識啓発にも力を入れています。さらに、従業員の健康と安全な職場環境の整備も進めています。

人事に関する基本方針

企業活力の源泉は「人」であり、人の成長なしに会社の成長はない、という考え方をもとに、人事諸施策を展開しています。処遇制度については、従業員一人ひとりが自らの能力を高め、日々努力を重ねて会社の業績向上に貢献した従業員が「頑張った甲斐があった」と納得

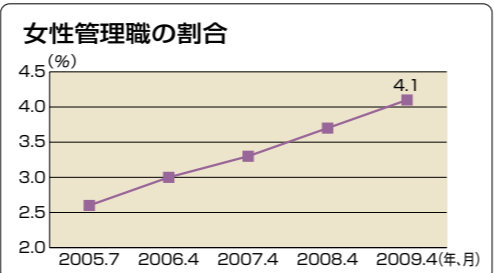
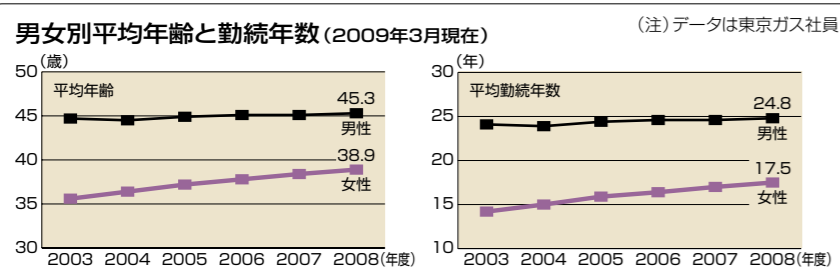
満足できるよう、一定期間の業績を反映するしくみを導入しています。メリハリある処遇を行うことにより、従業員の「やりがい・働きがい」の向上につなげ、活力あふれる組織の実現を目指しています。

2009年度～2013年度 グループ中期経営計画における人事政策

総合エネルギー事業戦略の進化・発展に向け、オール東京ガスの経営基盤を強化する上で最も重要な経営資源のひとつである「人材」について、経営環境の変化を踏まえ、「中長期的な人材確保・適正配置」を行うとともに、新たな人材育成策を再構築することで「一人ひとりの成長による生産性向上」

と組織貢献や部下・後輩育成の意識醸成による「人が育つ強い組織の実現」を目指すため、「人材確保・適正配置」「人材育成」「活き活きと安心して働ける環境整備」を3本柱とした、「2009年度～2013年度 グループ中期経営計画における人事政策」を2008年度に策定いたしました。

人事に関するデータ



障がい者雇用数と雇用率(2009年4月1日現在)

障がい者雇用数	196名
障がい者雇用率(法定雇用率1.8%)	2.11%

定年退職後の再就職状況(2008年度)

東京ガス	165名(前任契約社員)
関係会社など	29名
早期退職(注)	32名

(注)セカンドライフ支援のひとつで自らの選択により早期退職制度を利用した人数

働きやすい職場環境づくり

東京ガスでは、「次世代育成支援対策推進法」施行以前から仕事と子育ての両立をはじめとした、働きやすい職場環境づくりの支援を推進しています。育児支援では、産前産後休暇(男性の場合は、配偶者出産にともなう5日間の特別休暇)終了後、子が満3歳の誕生日以降の最初の4月1日の属する4月末日までの間に適用される「育児休業」と、妊娠中および子が小学校に入学するまでの間に適用される「育児勤務」を制度化。他にも、介護休業・勤務制度、ボランティア休暇・休暇制度、育児休業者に対する復職前セミナーなどを制度化するとともに制度の利用しやすい環境づくりにも取り組んでいます。

諸制度の利用者数(2008年度)

育児休業(満3歳に達した直後の4月未まで)	121名(うち男性1名)
育児勤務(妊娠中および子が小学校入学まで)	212名
介護休業(3年以内)	8名
ボランティア休暇(年間5日(半日単位の取得可)を上限に支給)	20名
リフレッシュ制度(30・35・40・50歳に適用)	797名

Topics

一社員として母として全力投球しています!

技術戦略部 技術総務グループ 兼 技術戦略グループ
漆原 左知子



2007年11月に長女を出産し産後休暇を取得後、2008年1月から1年3か月間、育児休業制度を利用しました。休業期間中は、親子でイベントや習い事に参加したり、娘とのゆったりとした時間を過ごしたことで、娘との強固な絆を育むことができました。また保育士の資格も取得し、さまざまな視点から社会問題を考えることができた大変貴重な時間でした。家族とコミュニケーションを深められたのは当然ながら、自分自身の成長にもつながりました。復職に際しては当初不安もありましたが、自宅でのインターネット閲覧、上司との定例面接、人事部主催の復職前セミナーなど、さまざまな制度のお陰でその心配はなくなり、

復職後はいままでも以上にやりがいを感じながら仕事と育児に全力投球しています。この充実した育児休業制度を作り上げてくれた諸先輩方、また、仕事と育児の両立をサポートしてくれる職場の仲間や上司に日々感謝しています。機会があれば、同じ会社で働く主人や他の男性社員にもぜひ育児休業制度を活用してもらい、この貴重な経験を今後の会社生活、社会人生活に役立ててもらいたいと思います。今後は、さらに働きやすい会社になるよう、また、「社会の宝である次世代」育成の取り組み推進に少しでも貢献できるよう、さまざまな視点から働きかけたいと考えています。

Topics

明日の東京ガスを背負っていく子どもたちとともに

東京ガス南与野独身寮
寮長 真塩 勝磨
磨美



東京ガスは、職場の壁を越えた交流を深めることや社会人としての自立を期待し、新入社員の独身寮をワンルームタイプから寮長在住、食堂・風呂等共同使用の集合寮へ切り替えを始めました。

着任時は「子どもたち」(寮生)とどう接してよいか不安でまさに手探りでしたが、一般にイメージされる「寮」でなく、自分たちが思い描く「寮」をつくっていくところから始めました。彼らは、社員でも寮生でもなく「わが子」ですから、私たちが管理人ではなく「親」という感覚で接しています。自覚と責任は生活の中で覚えるもので、他人が押し付けることはできないものです。「約束は守らなければいけないが、規則には柔軟に対応すればよい」と子どもたちに伝えていきます。これは「規則をやぶる」ということでなく、「いい方向にかえていこう」と一緒に考えてほしいからです。社会人としてマニュアルでしか動けない人間になってほしくないのです。

この数カ月で子どもたちの顔つきや話し方も変わり、背筋がピンとした姿を見て成長を感じています。子どもたちが笑う時、帰寮した時の「ただいま」の声ですごくうれしく、やりがいを感じています。来年の新入社員が入った時は、先輩となった子どもたちの成長を感じられるのではないかと今から楽しみです。通常の入寮期間は3～4年ですが、この間は「世間大学」に通っていると思って生活の中で多くを吸収してほしいです。そして、将来、東京ガスを背負っていく社員に育ってほしいと心から願っています。

労働安全衛生

安全衛生は、働く人の命と健康を守るという、まさに企業が負う社会的責務であり、企業存立の基盤です。また、東京ガスの企業ブランドである「安心・安全・信頼」は、安全衛生を確保し続けることによって受け入れられていくものであり、企業経営上最も重要な課題だと考えています。また、当社は、安全衛生の確保を最優先し、安全衛生関係法令の遵守をは

じめとしたコンプライアンスを徹底するとともに、災害・事故のリスクの撲滅に努め、「安全衛生のエクセレントカンパニー」を目指します。さらには、関係会社、協力企業を含めたオール東京ガスとしての安全衛生が、当社と同様に高いレベルで確保されていくよう、最大限の支援に努めています。

事例1 健康の保持・増進に向けた取り組みの拡充

健康の保持・増進を目的にさまざまな取り組みを展開しています。

- 2008年度「高血圧予防キャンペーン」
 - ①血圧測定チャレンジ(参加者数:301名)
 - ②全社講演会の開催(参加者数:99名)
- 2009年度「がん予防対策」
 - ①ポスターの掲示や講演会・講話などの開催によるがん予防に関する情報提供
 - ②禁煙支援活動の展開
 - ③ベストウエイト教育をはじめとする肥満対策の展開
 - ④身体活動の奨励
 - ⑤節酒の奨励 など



事例2 健康診断の充実

疾病の早期発見・早期治療、あるいは健康の保持・増進を目的に健康診断項目を充実させています。2009年4月には新たに前立腺腫瘍マーカー検査を導入しました。また、加速度計を利用した身体活動量の計測結果を基に身体活動(日常生活におけるウォーキングなど)を奨励していく予定です。

事例3 メンタルヘルス対策

近年、増加の傾向がみられるメンタルヘルスへの対策として啓発活動に加え、支援対策に取り組んでいます。

- 啓発活動
 - ①全社員を対象としたパンフレット「心の健康について」の作成および配布
 - ②管理職者に対するパンフレット「就業管理者のためのメンタルヘルスパフレット」の作成および配布
- 支援対策
 - ①ストレス度の自己診断ツールを用いたストレス軽減支援
 - ②職場ストレス診断ツールの開発・導入
 - ③休業者支援体制の確立



事例4 新型インフルエンザ対策

新型インフルエンザ対策として、パンデミック(感染症や伝染病の世界的な流行)時に備えた感染防護品および抗インフルエンザ薬の備蓄を行うとともに、新型インフルエンザを含めた感染症予防の啓発活動を展開しています。また、産業医が社内イントラネットに新型インフルエンザに関連するさまざまな情報を掲示して知識の普及に努めています。さらに、オール東京ガスの従業員に対して、パンフレットおよび感染防護品のサンプルを提供し、感染予防や備蓄の重要性を啓発しています。

環境方針と環境保全ガイドライン

東京ガスでは、2000年度に「環境方針」と「環境保全ガイドライン」を策定し、環境活動を推進してきました。2005年度には対象範囲を当社単体からグループ全体へと拡大、さらに2009年度は低炭素社会の実現、循環型社会の形成、自然共生社会構築に向けて、これまでの「温暖化対策」「資源循環」「グリーン購入」の3つの柱に「生物多様性保全」「環境コミュニケーション」「環境関連技術開発」を新たに加えて、環境保全ガイドラインの改定を行いました。

環境理念と環境方針

■理念

東京ガスグループは、かけがえのない自然を大切に資源・エネルギーの環境に調和した利用により地域と地球の環境保全を積極的に推進し社会的持続的発展に貢献する。

■方針

1. お客様のエネルギー利用における環境負荷の低減
2. 当社の事業活動における総合的な環境負荷の低減
3. 地域や国際社会との環境パートナーシップの強化
4. 環境関連技術の研究と開発の推進

環境保全ガイドライン

		2008年度実績	2010年度目標
温暖化対策 ガイドライン	お客様先でのCO ₂ 抑制量(基準年:1990年度)	721万トン	800万トン
	ガス製造工場のエネルギー使用原単位(ガス製造量当たり)	0.8%削減*	1%以上削減
	地域冷暖房のエネルギー使用原単位(熱販売量当たり)	1.3%削減*	1%以上削減
	発電所(送電電力量当たり)	1.1%削減*	1%以上削減
	東京ガスの事業所等のエネルギー使用原単位(都市ガス販売量当たり)	3.5%削減*	1%以上削減
資源循環の 推進ガイドライン	ゼロエミッション工場	13拠点/15拠点	10拠点/10拠点
	産業廃棄物の再資源化率(建設工事を含むその他廃棄物)	89%	91%以上
	紙ごみの削減率	5.1%増加	対05年度10%削減
	紙ごみの再資源化率	91%	85%以上
	1人当たりのコピー紙年間使用量	6,570枚	5,000枚
	掘削土の発生比率	18%	16%
グリーン購入 ガイドライン	グリーン購入率	66%	70%以上
	電子カタログ購買導入済の関係会社数	44社	48社

*5年度間の年平均削減率

2006～2010年度(旧)

温暖化対策 ガイドライン	①お客様先における温暖化対策(基準年:2005年度)	天然ガスの利用促進や、高効率で環境負荷の小さいガス機器・システム開発と普及促進など2005年度以降の当社グループの取り組みを通じて、お客様先でのCO ₂ 排出を2015年度に300万トン、2020年度に450万トン抑制することを目指す。
	②電力事業における温暖化対策	当社の電力事業におけるCO ₂ 排出係数を2005年度と比較して2015年度に15%削減し、2020年度までその原単位水準を維持する。
	③事業活動における温暖化対策	当社グループの事業活動におけるエネルギー使用量もしくは原単位を2005年度と比較して2015年度に10%～13%、2020年度に11%～20%下げることを目指す。
	④新エネルギーの普及推進	新エネルギーを最大限導入できるよう、新エネルギーを利用した商品・サービスの提供、新エネルギー供給(発電事業含む)、エネルギーの面的・ネットワーク的な利用推進等の取り組みを通じ、低炭素社会実現に貢献する。
資源循環の 推進ガイドライン	①産業廃棄物分野における資源循環の推進	①当社グループの製造工場において、発生抑制・再利用・再資源化の推進により、2015年までにゼロエミッションを達成する。 ②当社グループの事業活動において、製造工場以外から発生する建設廃棄物を含むその他廃棄物の再資源化率を2015年度に94%とする。
	②紙資源分野における資源循環の推進	①当社グループにおける紙ごみの発生抑制に努めるとともに、紙ごみ発生時のきめ細かな分別の推進により、2015年度まで再資源化率90%以上の水準を維持するとともに、循環再生紙への再資源化を推進する。 ②当社グループのコピー紙使用量を2015年度に2007年度実績の13%減とする。
	③掘削土分野における資源循環の推進	当社グループが発注する道路上の工事から発生する掘削土量を、減量化・再利用・再資源化の推進により、2010年度に16%に抑制し2015年度までその水準を維持する。

生物多様性保全の推進ガイドライン 当社グループは生物多様性が生み出す恩恵(生態系サービス)の重要性を認識し、事業活動における生物多様性への影響の把握・分析、及び事業の進め方の改善に努め、生物多様性保全に資する活動を推進する。また、自らの事業活動に関与しない生物多様性問題に対しても社会貢献活動として取り組みを推進する。

グリーン購入の推進ガイドライン ①当社グループは、お取引先との協働により、購買活動を通じて省エネルギー・省CO₂に取り組み、低炭素社会の実現に貢献する。
②当社グループは、お取引先との協働により、ガスメーター、ガス管、紙資源等の3R(廃棄物等の発生抑制、再使用、再生利用)の取り組みを推進し、購買活動を通じて循環型社会形成に貢献する。
③当社は電子カタログ購買におけるグリーン購入率を2010年度に70%以上とし、2015年度までその水準を維持する。

環境コミュニケーションの推進ガイドライン オール東京ガスは、様々な機会を通じて、これからの世の中に求められるエコで幸せな暮らしのある社会をお客様とともに創造していく。
①地域との協働や身近な省エネ情報の提供などにより「エコハビ*」マインドを広め、環境に配慮した暮らしをお客様とともに実現する。
*「エコハビ」エコな暮らしでHAPPYに。エコな暮らしを楽しむこと、身近なエコを実践すること、いつもの暮らしがHAPPYになること。
②未来を担う世代に環境とエネルギーの関わりとその大切さを学ぶ機会を提供するため、学校教育支援活動や企業館運営、自然体験活動を通じ、次世代へのエネルギー・環境教育を推進する。
③オール東京ガス所属員とその家族の「エコハビ」マインドを醸成し、家族や地域での実践を促進する。

環境関連技術開発の推進ガイドライン 燃料電池、新エネルギー活用、水素・CO₂マネジメント等に関する革新的環境技術の開発を加速し、スマートエネルギーネットワークの普及を推進する。

2009～2015年度(温暖化対策は、2020年度(新))

情報開示

東京ガスグループは企業としての説明責任を果たすため、企業行動理念に基づき、積極的な情報開示に努めています。経営および事業活動に関する情報のみならず、とくに、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまの生命・身体・財産等に関わる事項に関しては、適切な対応策を講じるとともに、透明性のある正確かつ迅速な情報公開を実施しています。

情報開示実績

東京ガスは2008年度、189件のプレスリリース(報道機関向けの発表)を行いました。そのうち、お客さま・社会にご迷惑をおかけした事象に関するものは9件でした。なお、これらは当社ホームページにて公開すると同時に、「重要なお知らせ」として掲載しています。

■お客さま・社会にご迷惑をおかけした事象

プレスリリース概要	件数	当社の対応
お客さま情報の紛失(盗難被害を含む)・回収	8	二次被害防止の視点から、すみやかに該当するお客さま全員に個別に連絡し、事情をご説明するとともに、お詫びさせていただきました。当社においては、お客さま情報の保護を極めて重要な事項と認識しており、事態の発生を真摯に受け止め、委託先関係会社および協力企業などと連携して再発の防止に努めております。なお、これまでに紛失したお客さま情報が外部に流出し利用された事実は確認されておりません。
松下電器産業(株)製「ガス衣類乾燥機MA-040C-S」の無償修理作業の実施について	1	設置先が特定できているお客さまにダイレクトメールを発送し、点検ならびに修理作業を無償で実施する旨をお知らせしました。また、インターネットホームページにも掲載しました。フリーダイヤルも併せて設置し、お客さまからの問い合わせを受け付けております。該当機種をご使用のお客さまを順次訪問して点検ならびに修理作業を行っております。

IR情報開示の基本方針

東京ガスグループは企業の真の価値と市場評価とのギャップを埋めるために、積極的な情報開示に努めています。短期・中長期の経営目標や、その実現に向けた具体的な経営戦略・アクションプランを開示し、計画の進捗状況や実績を積極的に公表しています。その一環として、各種IRツールを用

意し、さらなる情報開示の充実に努めています。また、一方的な情報開示に留まらないよう、国内・海外機関投資家訪問や各種説明会など、トップマネジメントが積極的にIR活動に取り組んでいます。

主な外部表彰

表彰名	主催	受賞内容(件名)	受賞者
平成20年度高圧ガス保安原子力安全・保安院長表彰	経済産業省	高圧ガスを扱う製造事業所として、社員の保安意識の向上と災害防止に努め、長年にわたり無事故無災害を継続	東京酸素窒素
PRTR優秀賞・審査員特別賞	(社)環境情報科学センター	地域における、化学物質についての積極的なリスクコミュニケーション	ガスター
平成20年度3R推進功労者等表彰「3R推進協議会長賞」	3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進協議会	東京ガス循環再生紙	東京ガス
第6回カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト：気候変動対策公表先進企業	第6回カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト	気候変動対策に関する情報開示度の高さ	東京ガス
「第6回パートナーシップ大賞」グランプリ	NPO法人パートナーシップ・サポートセンター	NPO法人プラス・アーツと、2006年より実施してきた「地域社会の防災力の向上」をテーマにした協働内容	東京ガス
平成20年度 証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定 電力・ガス業種の部	(社)日本証券アナリスト協会・ディスクロージャー研究会	ディスクロージャー優良企業 電力・ガス部門1位(5年連続5度目)	東京ガス
インターネットIRベスト企業賞	大和インバスター・リレーションズ(株)	優秀なインターネットIRサイト企業 総合ランキング2位(6年連続 ベスト企業賞)	東京ガス
第2回キッズデザイン賞 コミュニケーションデザイン部門(1作品) 商品デザイン部門(2作品)	NPO法人キッズデザイン協議会	コミュニケーションデザイン部門：東京ガス親子クッキング講座 エコ・クッキング自由研究図書 商品デザイン部門：「Siセンサーコンロ」「ユニバーサルデザインコンロ Udea(ユーディア)」	東京ガス
2008年グッドデザイン賞(2作品)	(社)日本産業デザイン振興会	ピピッとコンロ「プラス・ドゥ・グリル」、ガスファンヒーター「ヨハク」	東京ガス
土木学会技術賞	(社)土木学会	中央幹線Ⅰ期建設工事のシールド工事プロジェクト	東京ガス

SRI(社会的責任投資)組み入れ状況

東京ガスグループは、ガバナンスの方針・体制や環境マネジメントシステムが整備されており、全体的に質が高くバランスの取れた取り組みを行っている点が評価され、数々のSRIインデックス、SRIファンドに組み入れられています。

東京ガスが組み入れられているSRIインデックス



Ethibel Sustainability Index



FTSE4Good

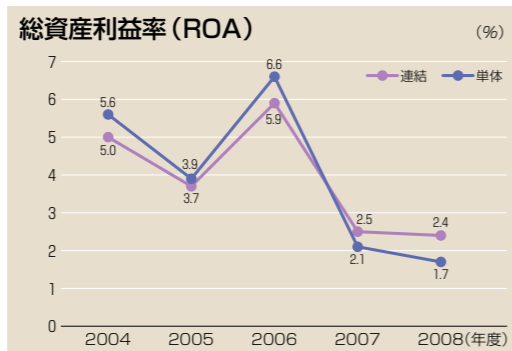
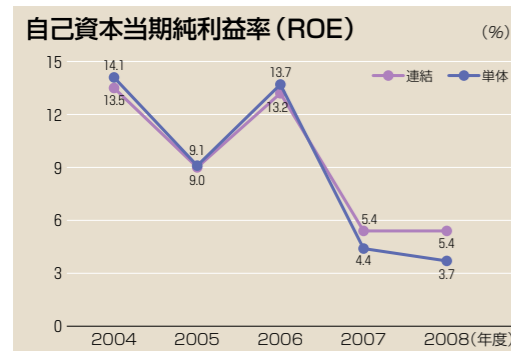
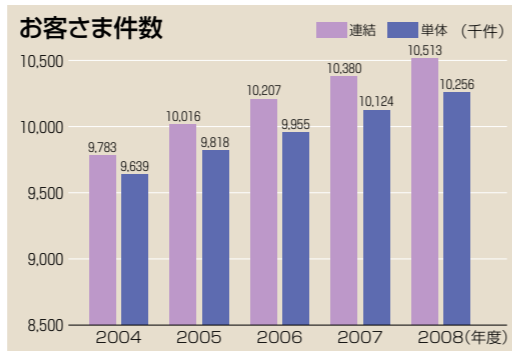
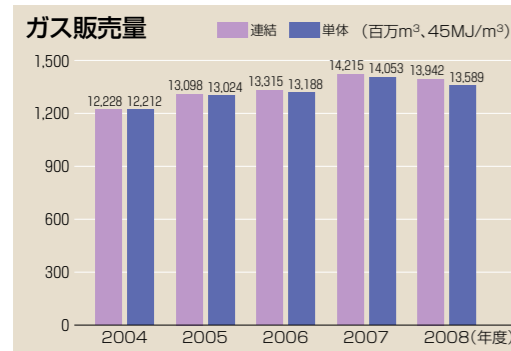
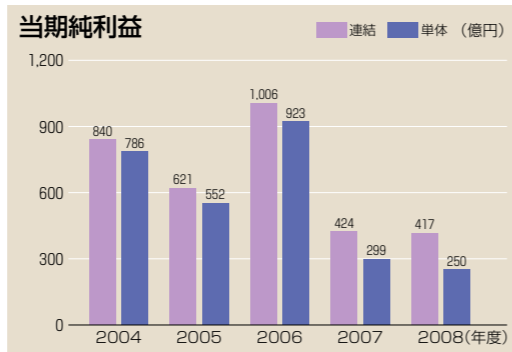
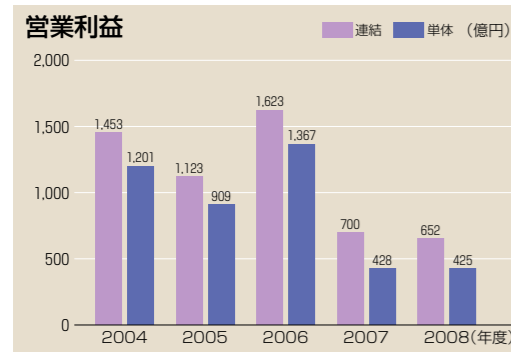
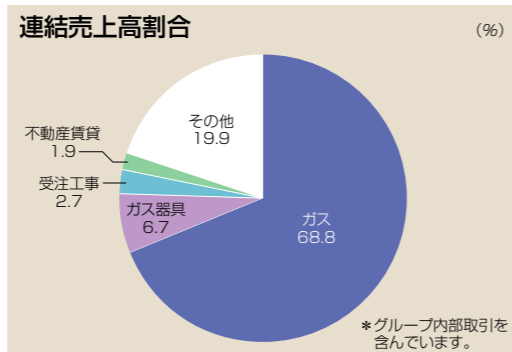
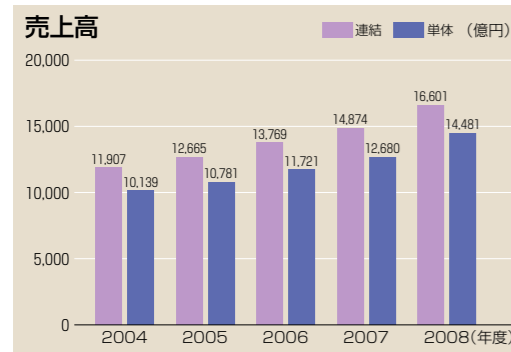


MS-SRI

会社概要 (東京ガス株式会社)

- 創立 1885年(明治18年)10月1日
- 資本金 1,418億円
- 主な事業内容 (1)ガスの製造・供給および販売
(2)ガス機器の製作・販売およびこれに関連する建設工事
(3)熱供給事業
(4)電気供給事業
- 従業員数 7,579名
- 供給区域 東京都および神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、山梨各県の主要都市
- 関係会社 連結子会社 57社 持分法適用関連会社 4社

経済報告



グループ会社一覧

- リビングエネルギー本部**
 - トーセン(株)
 - 東京ガスリモテリング(株)
 - ティージー・クレジットサービス(株)
 - ティージー・テレマーケティング(株)
 - 東京器工(株)
 - 東京ガス・カスタマーサービス(株)
 - 株式会社(給湯部門)
 - 株式会社(ライフ・サービス)
 - 株式会社(デザインセンター)
 - 東京ガスライフビル(株)
 - 東京ガスライフビル(株)
 - 東京ガスライフビル(株)
 - 東京ガスライフビル(株)
- リビング法人営業本部**
 - 株式会社(住宅評価センター)
 - 株式会社(リビング部門)
- エネルギーソリューション本部**
 - 株式会社(エネルギーアドバンス)
 - 株式会社(空調部門)
 - 株式会社(機軸管パワ)
 - 株式会社(島パワ)
 - 株式会社(エネジオ)
 - 株式会社(エネルギーソリューション)
- 広域圏営業本部**
 - 東京ガスエネルギー(株)
 - エネライフ・キャリア(株)
 - 東京オートガス(株)
 - 東京ガス山梨(株)
 - 昭和運輸
 - 東京ガスLPGターミナル(株)
 - 千葉ガス(株)
 - 栃木ガス(株)
 - 筑波学園ガス(株)
 - 鷲宮ガス(株)
 - 松本ガス(株)
 - 美浦ガス(株)
 - 長野都市ガス(株)
- 導管ネットワーク本部**
 - 株式会社(パイプライン部門)
 - 株式会社(テック)
 - 川崎ガスパイプライン(株)
 - 東京ガスパイプライン(株)
- エネルギー生産本部**
 - 株式会社(東京ガスベイパワ)
- 資源事業本部**
 - 東京エルエヌジータンカー(株)
 - TOKYO GAS AUSTRALIA PTY LTD
 - TOKYO GAS DARWIN LNG PTY LTD
 - TOKYO GAS PLUTO PTY LTD
 - TOKYO GAS INTERNATIONAL HOLDINGS B.V.
 - TOKYO GAS-MITSUI & CO. HOLDINGS SDN. BHD.
- IT本部**
 - 株式会社(ティージー情報ネットワーク)
 - 株式会社(ティージーアイ・フィナンシャル・ソリューションズ)
- 資材部**
 - 東京ガスオートサービス(株)
- 管財部**
 - 東京ガス都市開発(株)
 - 東京ガスファシリティサービス(株)
- 大規模用地プロジェクト部**
 - 東京ガス豊洲開発(株)
- 広報部**
 - 株式会社(アーバン・コミュニケーションズ)
- 関連事業部**
 - 東京ガスケミカル(株)
 - 東京酸素窒素(株)
 - 東京炭酸(株)
 - 東京レアガス(株)
 - 東京ガスケミカル販売(株)
 - 東京ガス・エンジニアリング(株)
 - TGE (SHANGHAI) LNG ENGINEERING CO. LTD.
 - 日本超低温(株)
 - ティージー・エンタープライズ(株)
 - パークタワーホテル(株)

東京ガスグループCSR報告書2009

■対象期間

2008年度(2008年4月1日~2009年3月31日)

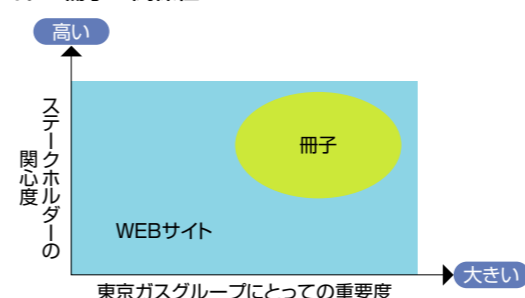
■対象範囲

東京ガスグループ
一部協力企業を含むオール東京ガス
「オール東京ガス」は、東京ガス株式会社、関係会社、協力企業の総称です。

■編集方針

東京ガスグループのCSRの取り組みについて多くの方々にご理解いただくために、天然ガスの調達からお客さまへの販売・サービスにいたる「LNGバリューチェーン」を通じた社会的責任を中心に、中期経営計画におけるCSRの重点活動である「保安・防災」「環境」「パートナーシップの構築」の取り組みなどを紹介しています。
さらに、ステークホルダーの皆さまの関心の度合いに合わせてご覧いただけるよう、CSRの具体的な取り組み事例や詳細情報を掲載したWEBサイトと、要点を絞り込んで紹介する冊子(本冊子)をご用意しています。

WEBサイトと冊子の関係性



WEBサイト編集方針

WEBサイトを「CSR報告書」として位置づけ、東京ガスグループのCSRの取り組みを掲載しています。トップ画面を見るだけで全内容を把握できるメニュー体系や、主要図表のインデックスを用意するなど、読みたい項目の探しやすさに配慮。東京ガスグループのCSRをより正確にお伝えするサイトを目指しました。また、項目ごとにPDFをご用意し、必要なページの印刷が容易になりました。

冊子編集方針

東京ガスグループのCSRに関する基本的な考え方や、2008年度の活動の中から主なものをピックアップして紹介。また、CSR最前線「LNGバリューチェーンを支える人々」と題して、最前線で働く人たちにスポットライトをあて、本業を通じたCSRの姿をレポート。東京ガスグループのCSRをより実感できる冊子を目指しました。

その他のコミュニケーションツール

さまざまなステークホルダーに向けて、CSR関連情報をわかりやすく発信しています。



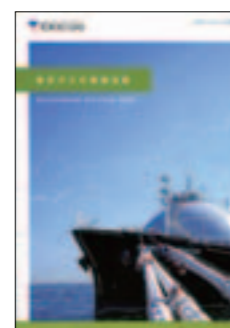
CSRミニBOOK



会社案内2009



アニュアルレポート2009
http://www.tokyo-gas.co.jp/IR/library/anurp_j.html



東京ガスの環境活動2009
<http://www.tokyo-gas.co.jp/env/>



東京ガスの地震防災対策



ガスの安全基礎知識

■WEBサイトのみに掲載している情報

WEBサイトでは、すべての情報が冊子より詳しくなっています。また、冊子では掲載できなかった情報も公開しています。

●テーマ別で見るCSR

- ・ガスの安全への責任
- ・環境への責任
- ・社会文化活動
- ・グループ会社の取り組み

●CSRコミュニケーション

- ・ステークホルダーダイアログ
- ・第三者意見
- ・CSR推進会議議長メッセージ
- ・報告書2008アンケート結果

●CSRインデックス

- ・主要図表インデックス
- ・GRIガイドライン対照表

<http://www.tokyo-gas.co.jp/csr/>



つなぐ、むすぶ、ささえあう。

公益的使命感と社会的責任を強く意識する私たちは、
天然ガスを通じて、「人與人」「人と社会」、「人と未来」を
つなぎ、むすぶ、ことを願っています。

そして、人と社会、地球環境がともにささえあう、
という気持ちを大切にしています。

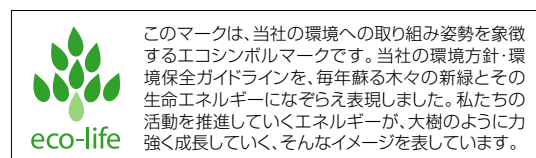
こうした想いを、
「つなぐ、むすぶ、ささえあう。」
というメッセージにこめました。

東京ガスグループのCSR 2009 2008.4~2009.3 2009年8月 第1版発行

- 発行責任者 東京ガス株式会社 広報部長 尾花 秀章
- 企画・編集 東京ガス株式会社 広報部CSR室
〒105-8527 東京都港区海岸1-5-20
TEL 03-5400-7820
- 制作 株式会社アーバン・コミュニケーションズ

詳しくはWEBサイト「東京ガスグループCSR報告書2009」をご覧ください。
<http://www.tokyo-gas.co.jp/csr/>

本書掲載記事の無断転載・複製を禁じます。
©2009 東京ガス株式会社



この冊子は、社内の使用済み文書、管理された植林地材および再・未利用材を原料とした「東京ガス循環再生紙」を使用しています。

